

# 定量的マクロ経済学 a

Keio 2022 Spring

1. Micro-to-macro approach

2. Quantitative analysis

3. Program • Computer

## Micro-to-macro approach

たとえば、

- 労働分配率の低下
- 賃金格差の増大
- 法人税が低下
- スーパースター企業の市場占有率が上昇

ミクロからのボトムアップアプローチでマクロの問題を考える

# Quantitative analysis

- 定量的な分析
- 定性的な分析

－ 持続化給付金の政策効果は

A. 企業倒産を〇〇%押し上げ

B. GDPを▲▲%押し上げ

資料1

# 新型コロナウイルス感染症緊急経済対策の 経済効果試算

令和2年4月15日

内閣府

## 緊急経済対策による経済効果① GDPの下支え・押上げ効果

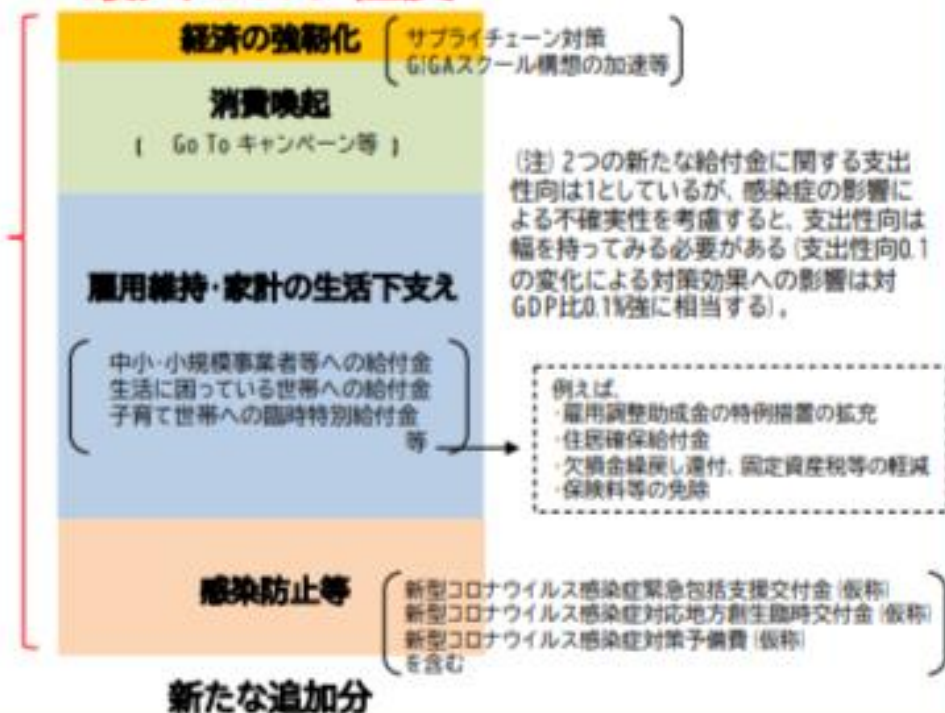
- 本経済対策の経済効果には、雇用の維持や事業の継続、その後の力強い回復実現のための政策の効果が含まれるが、そのうち、支出が直接的にGDPを下支え・押上げる効果を取り出すと、実質GDP換算で最大(注)3.8%程度。

- 〔 ・「総合経済対策」のうち今後効果が発現すると見込まれる分：1.1%程度  
・「緊急対応策」第1弾及び第2弾、今回新たに追加する施策によって見込まれる分：最大2.7%程度 〕

### 実質GDP換算 最大3.8%程度



### 最大 2.7% 程度



# 最大 2.7% 程度

## 経済の強靱化

（ サプライチェーン対策  
GIGAスクール構想の加速等 ）

## 消費喚起

（ Go To キャンペーン等 ）

## 雇用維持・家計の生活下支え

（ 中小・小規模事業者等への給付金  
生活に困っている世帯への給付金  
子育て世帯への臨時特別給付金  
等 ）

（注）2つの新たな給付金に関する支出性向は1としているが、感染症の影響による不確実性を考慮すると、支出性向は幅を持つてみる必要がある（支出性向0.1の変化による対策効果への影響は対GDP比0.1%強に相当する）。

例えば、

- ・雇用調整助成金の特例措置の拡充
- ・住居確保給付金
- ・欠損金繰戻し還付、固定資産税等の軽減
- ・保険料等の免除

# Quantitative analysis

- 定量的な分析
- 定性的な分析

－ 持続化給付金の政策効果は

A. 企業倒産を〇〇%押し上げ

B. GDPを▲▲%押し上げ



# Program ・ Computer

- CPU、RAM
- Python ? C++ ? Fortan ? Matlab ?
- コンパイラ言語 ? インタプリタ言語 ?
- Github ? Googlecolab ?
- 富岳 ?

## Plan for this year

5/31: Intro

6/7: Business Cycles

6/14: Growth Accounting

6/21: Investment (decision theoretic)

6/28: Productivity (aggregation)

7/5: Backup

7/12: Exam

## 6/7: Business Cycles

景気循環について定量的にパターン化する

HPフィルター:トレンドと循環を峻別

GDPの標準偏差は消費より何%小さいか？

GDPと設備投資の相関係数は？

日本の設備投資は米国のそれと比較してボラタイルか？

## 6/14: Growth Accounting

経済成長について定量的に要因分解する。

### Growth Accounting

経済成長には生産性成長がどの程度寄与するのか？

経済成長には資本の蓄積がどの程度寄与するのか？

日本の経済成長は他国と比較して特異か？

## 6/21: Investment (decision theoretic)

企業の設備投資に**金融制約**がどう影響するか？

企業は**不確実性**の直面した時どのように設備投資を実施するか？

## 6/28: Productivity (aggregation)

個別企業の行動を足し合わせてマクロ経済の生産性を計測。

金融政策、不確実性が経済全体の生産性にどう影響するか？

## Plan for this year

5/31: Intro

6/7: Business Cycles

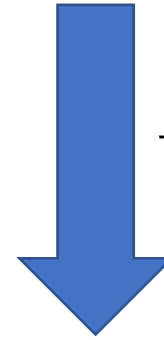
6/14: Growth Accounting

6/21: Investment (decision theoretic)

6/28: Productivity (aggregation)

7/5: Backup

7/12: Exam



マクロ経済学の基本トピック



専門分野

# Plan for this year

5/31: Intro

6/7: Business Cycles

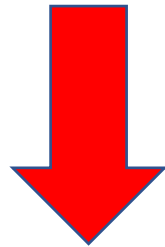
6/14: Growth Accounting

6/21: Investment (decision theoretic)

6/28: Productivity (aggregation)

7/5: Backup

7/12: Exam



課題の発表/確認  
試験に向けた準備